

孫の手通信



— 第22号 —

平成24年3月23日

玉川孫一郎と歩む会

TEL: 0475 (42) 2001 / FAX: (42) 6622

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

3月議会開かれる

3月5日に開催された第1回一宮町議会定例会は、平成24年度の予算案ほか執行部から提案されたすべての議案を可決しました。

徹底的な事業の見直しをおこない、平成22年度から3年連続で、財政調整基金町の貯金を取り崩さないで予算編成をすることができました。町の貯金にあたる各種基金も、3億6千万あまりも積み上げることができる見込みです。

防災、減災対策を重点に予算を作成

新年度予算は、東日本大震災の悲劇を再び繰り返さないために、防災、減災対策を重点に作成しました。

○一宮小学校屋内運動場の耐震改修(25年完成予定)

津波避難所でもある屋内運動場の耐震改修を行います。この工事の終了により学校施設の耐震化は100パーセント完了します。

○保育所耐震改修

一宮と東浪見の保育所の耐震改修を行います。

○防災無線屋外子局新設

防災無線の空白地帯(大村から釣にかけての海岸線)に屋外子局を新設し、津波警報などが聞こえるよ

うにします。

○自主防災組織設置補助

各自治会が自主防災組織を立ち上げる際の費用を補助します。

○家具転倒防止器具設置補助

高齢者・障害者世帯を対象に家具転倒防止器具の設置費用を補助します。

○木造住宅耐震診断補助

ご自宅(木造住宅)の耐震診断費用を補助します。

○太陽光発電システム補助

自然再生エネルギーの導入促進を図るため、住宅用太陽光発電システムの設置費用を補助します。

○高齢者肺炎球菌予防接種

高齢者の死亡原因となっている肺炎球菌を予防するため、65歳以上の方を対象にワクチンの接種費用を助成します。

○農産物PR看板設置

町の特産物であるトマト、メロン、梨などをアピールする看板を、上総一ノ宮駅から見える位置に設置します。

○天道跨線橋通り改良工事

宮原から船頭給を通り海岸につながる天道跨線橋通りは、交通量が多い主要道路ですが、歩道が無く危険な状態です。このため国庫補助を活用して歩道を新設します。

○ご当地ナンバー作成

町のキャラクターである「いっちゃん」を50ccバイクのナンバープレートに印刷し、町をPRします。

○課題提示型町民提案事業

平成21年度から実施している町民提案事業ですが、従来の町民団体提案型に加え、町が課題を提示し、応募のあった町民団体に業務を委託する課題提示型町民提案事業を開始します。

小学生と町づくりを語る

2月28日「小学生と町づくりを語る会」が一宮小学校で開催されました。会場には、一宮小学校と東浪見小学校の6年生101人が参加、町からは私と副町長、教育長の三人が出席し、生徒たちと話し合いました。海岸侵食やポンポン船の復活など、小さな子供たちが町の将来について真剣に考えていることを知り、一宮の将来は明るいと思えることができました。なお、この模様は新聞やテレビでも大きく報道されました。

新庁舎建設計画を決定

町では昨年9月に基本計画の素案を公表し、町議会や町民の皆さまから幅広くご意見を頂きました。この中で多数寄せられた要望は、東日本大震災の被害状況を踏まえ津波などの災害に強い庁舎にしてほしい、というものでした。このようなご意見を反映し検討を重ね素案に一部変更を加えて基本計画を決定しました。

まず、構造を、鉄骨よりもさらに津波に強い鉄筋コンクリートにしました。新庁舎を津波避難ビルとして、国の設置基準に適合させるためです。これに伴い事業費を6億5千万円から7億5千万円に増額しましたが、建設手法には費用と工期を圧縮できる設計・施工一括方式を採用しました。

これまで、町議会をはじめ、町の広報紙や町民説明会などを通じ、議会や町民の皆さまにできる限り丁寧に新庁舎建設についてご説明をし、皆さまの声を傾け検討を重ねて参りました。

この結果、相当の期間を費やしてきましたが、現庁舎は耐震性等に問題を抱えており、新庁舎の建設は住民や町職員の生命にかかわる緊急的な課題です。これ以上、

建設までの時間を延ばすことはできません。

昨年度の庁舎建設検討委員会による検討、町民グループによる庁舎建設を考える会などを始め、これまでの多くの方々のご意見を踏まえた上で、現庁舎敷地内に、津波一時避難所としての機能を持たせて、4階建て以上の鉄筋コンクリート造で建設することが、総合的に最も適していると判断し、この基本計画を決定いたしました。(詳しい内容については、町の広報、ホームページで公表します) 平成24年度に基本設計・実施設計を行い、25年度に工事に着手する予定です。

今後とも新庁舎建設につきましまして、ご理解・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

釣ヶ崎海岸広場完成

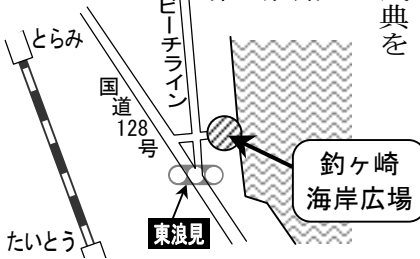
記念式典のお知らせ

一雨降ると、水溜りができて車の走行も困難であった、釣ヶ崎海岸が株式会社大塚商会相談役名誉会長 大塚実氏のご支援により、すばらしい広場に生まれ変わりました。1200年の歴史を伝える十二社祭とサーフィンの聖地として一宮町の新しい観光名所の誕生です。

町では、完成を祝う記念式典を開催します。

当日は鼓や東浪見甚句の披露もありますので、ぜひご来場いただき、ご自分の目でお確かめください。

日時 3月25日(日)
午前10時から
場所 釣ヶ崎海岸広場

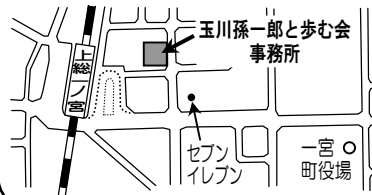


事務所開きのご案内

後援会「玉川孫一郎と歩む会」の事務所開きを下記のとおり開催します。

皆さまのご来場をお待ちしています。

日時 4月8日(日) 午前10時から



場所 駅東口すぐ
一宮町一宮 2559-4
TEL: 0475(42)2001
FAX: 0475(42)6622

最近の新聞より

平成24年3月2日 千葉日報



小学生と町づくりを語る会

児童たちに町づくりについて説明する玉川町長(中央)＝一宮小学校

行政質問、大人顔負け 町長、小学生と町づくり語る

一宮町の玉川孫一郎町長(歳歴校長)の6年生合わせと町の小学生による町づくりに関する質問に、町長が参加、児童代表8人が町長に行政への質問を投げかけた。町長は「九十九里全体が浸食されている。人工の岬(ヘッドランド)をつくらせ、片貝などから砂を運び対策を講じている」と答えた。

また、同小の藤ヶ谷鈴音さんは、2006年に廃止されたボンボン船の運航再開に期待を込めた。町長は「河川工事が終わり再び走り出せたい」という声が多い。知恵と力を合わせれば可能。ぜひ復活させたい」と復活に意欲を見せた。

このほか、公園の設置やJR上総一宮駅東側改札口の設置、巡回バスの運行、福祉への取り組みなど、大人顔負けの質問が相次いだ。

平成24年3月6日 朝日新聞



最後の一宮藩主 加納久宜に学ぶ

一宮藩最後の藩主で鹿兒島県知事などを歴任した加納久宜(1848～1919)の功績を検証するシンポジウムが25日、町の中央公民館で開かれた。加納久宜公研究会(林一雄代表)の主催で、加納が設立した、入新井信用組合を設立。加納の助言で各地に信用組合が生まれ、その後、合併して現在の城南信用金庫となった。

シンポのパネリストとなった吉原理事長は「加納は町の人のために尽くすことが使命だと言ってきたが、今こそその教えを大切に、仕事に取り組みしていきたい」と述べた。聴衆は約200人で、加納の子孫になる加納久昭さん(69)も参加し、熱心に耳を傾けていた。

平成24年3月6日 毎日新聞

海岸線保護に多額寄付

一宮町 大塚実さんに感謝状

〇A機器の大塚商会 大塚さんは一宮町に相談役名誉会長、大塚 対し、これまでも釣ヶ崎海岸広場、エコト宮町に4000万円を寄付した。松枯れが進む一宮海岸線の自然保護と再生のため、昨年未にも3000万円、13年1月にはさらに3000万円の寄付を予定しており、寄付金は総額1億円になる。町はこの日開会した議会の冒頭、大塚さんに感謝状を贈った。

大塚さんはライフワークとして、鴨川市の「天山千枚田」や熱海



一宮海岸の白砂青松復活を願う寄付を続ける大塚実さん(右)に感謝状を贈る玉川町長

海岸の松並木の保存、琵琶湖の水質浄化など、各地の自然保護と

一宮町の自然景観の再生に取り組み中。同社は88年に社員厚生施設として「ホテル一宮」をオープン。しかし周辺の県有林のメンテナンスに心を配った大塚さんは、松林再生とともに散策が楽しめる「花の小径」を整備し、県に寄付。今年6月ごろには早咲きの熱海サクラを移植する計画だ。大塚さんは「一宮は交通アクセスも良い。白砂青松の美しかった明治、大正期に負けない一宮にしてもらいたい」と熱い思いを話した。(吉村建二)

私たちは、カンパとボランティアでお金のかからない活動を行っています。ボランティアの仲間募集中。